

マッサージでできること 27 ～症例を参考に～

【引きこもりが外出に至った事例】

変形性腰椎症と変形性膝関節症の既往のあるYさん（女性・80歳）は、人工膝関節置換術を受けましたが、術後にあまり運動をされなかったためか、下肢に浮腫みや痺れが出現していました。歩くのが困難になってからは、家にこもってしまい、気力もなくなっていました。

担当ケアマネジャーの方からのご紹介で、状況把握のために初めて訪問した際は、Yさんご家族もご不安そうでした。しかし、主治医への御願状等の書類作成を当方で行うことや、お身体を拝見して推測できるお身体の状態を説明し、最適な施術内容や方針を説明したことで安心して頂きました。また、マッサージも受けて頂き「関節の動きがスムーズになった」と喜んで頂きました。

ケアマネジャーの方と連携し、主治医から同意書を頂戴できたため、訪問施術を開始しました。まずマッサージで腰臀部や股関節周囲、下肢の筋緊張を和らげ、関節の動きをスムーズにして、下肢の屈伸運動とリンパドレナージュを行うと浮腫みは徐々に減少し、痺れも楽になっていきました。次第にやる気も出てきたようで「足が動かしやすくなってきた」と喜んで頂けるようになりました。現在は機能訓練を行っているデイサービスに通って積極的に筋力を保つ運動ができるようになりました。

ご自宅にこもってしまわれた方が、自力で運動習慣を保つことは非常に難しいことだと思います。歩行が困難になることで、社会に出る機会が少なくなり、社会との繋がりが薄れると、認知症リスクが高まるとも言われます。なるべく外部との繋がる機会を作り、楽しんで過ごして頂ける様に、本年も努力して参ります。（のんき）



マッサージでできること 28 ～症例を参考に～

【遠方の老親の介護についての相談を受けた例】

当院に来院された患者さんの施術中に、遠方にお住まいの義理のご両親（共に80歳代）について話が出ました。老夫婦だけの田舎暮らしである上、義母の認知症が悪化し、家事のあらゆる場面に支障がでている状況で、心配ということでした。義父は、義母を専門医に診せておらず、家庭内に家事手伝い等の他人（ヘルパー）を入れることに拒否感があるようです。若い女性の担当ケアマネジャーともまだ打ち解けていないようでした。

何から手を付けていいかわからない、といったお悩みでしたので、医療福祉事例検討会で学んだ内容が活かされました。

この患者さんご家族は担当ケアマネジャーの方とまだ会っていなかったため、早急に連絡を取り、できれば帰省し、担当ケアマネジャーと当事者を交えての会議を行い、互いの意思確認を行うことをお勧めしました。

そして、会議は後日実行されました。義理のご両親は、ご家族が自分たちのために集まって話し合ってくれたことに大変喜ばれたそうです。「あの頑固な義父が…」と喜びのご報告を頂きました。義父は会議を通じて担当ケアマネジャーへの信頼感が生まれたようですから、介護環境を整えるための良い第一歩となったようでした。

マッサージや鍼灸の施術では、在宅か来院かで異なりますが、おおかた30～60分といった時間、手を当てながら会話することがしばしばあります。家庭内の込み入った話題が出てくることも頻繁で、その内容自体が整理されていないことも多々あります。相槌を打ちながら話をしていると、自然に中身が整理されていくことも往々にしてあり、それは患者さんの納得・決心・覚悟に繋がっていくようです。

このケースは、アドバイス（と言えるほどの内容ではありませんが）の結果、来院されたきっかけの症状も改善しました。身体だけでなく、心にも寄り添える姿勢で臨もう！と改めて思った次第です。（草の根）

最後までお読み頂き、ありがとうございます。

当会や在宅医療マッサージについて、ご興味・ご関心をお持ち頂きましたら幸いです。

◆訪問医療マッサージを考える会つば

つば市内での在宅における訪問医療マッサージの現状を少しでも改善させ、利用者やその家族に喜ばれるよう、市内のマッサージ師（鍼灸師も含む）有志で2015年に結成しました。

（2018年1月現在、マッサージ師9名、鍼灸師9名所属）

事務局・発行元：こぼり治療院

☎ 029-869-9979

◆ホームページ随時更新中！

<http://medical-massage-at-home.com>

